

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	宮崎の自然豊かな河川環境フェスティバル2021
助成事業者	特定非営利活動法人大淀川流域ネットワーク
代表者	代表理事 杉尾 哲

(目的)

宮崎県内の河川では、令和2年度から3ヶ年で国土強靱化の取組みが進められていて、河道の砂州掘削と樹木伐採が重点的に実施されている。しかし、砂州のワンドと河畔林は、国家戦略の生物多様性の保全と自然が豊かな河川生態系の形成に重要であり、治水と環境保全が調和した良い川づくりが必要である。そのため、当団体と宮崎県河川課が協働する宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会では、行政と企業の技術者を対象として現場研修会を開催した。しかし、地域住民が砂州と河畔林の完全撤去を要望していることが課題である。自然が豊かで生物多様性に富み、潤いをもたらす良い川を次世代に受け渡すには、一般住民を対象とした良い川づくりの啓発が必要である。

良質な社会資本の整備の推進に寄与することを目的として、宮崎市内の商業施設で親子を対象とした良い川づくりの啓発イベントを開催する。イベントの内容は、県内の良い川づくり事例紹介のパネル展示と、自然環境の素晴らしさ・大切さ・楽しさに関するミニ地球づくりなどを行う。さらに、子どもを対象として川の素晴らしさ・大切さ・楽しさをテーマに絵を募集し、選定して卓上カレンダーを作成して、表彰するとともに広く住民に配布する。

(概要)

一般住民を対象に良い川づくりを啓発するため、前年度とほぼ同じ内容の良い川づくりの啓発イベントと卓上カレンダーの作成・表彰・配布を、住民に魅力的になるように、さらに見直して実施した。①前年度に実施された河道の砂州掘削と樹木伐採の代表事例のパネルを追加作成と、これまでの川づくり優良事例と比較したパネルを展示した。②親子を対象とした良い川づくりの啓発イベントを開催した。③子どもを対象として川の素晴らしさ・大切さ・楽しさをテーマに絵を募集し、選定して卓上カレンダーの作成及び表彰するとともに、広く住民に配布した。表彰式前には、良い川づくりのミニ講演を行い、次世代に受け渡す良い川づくりに関心を持ってもらった。